



一 地獄
面 照子淨頗梨

13
2056
3





あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの

あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの

あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの

あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの



あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの

あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの

あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの

あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの



巴の巴

まてり上、おはせまは下上
 申、あり
 無、あり
 ついで、あり

舞臺

演画

京傳 醉中作



左大弁
 從三位朝臣兼
 地獄の
 あうまを
 はり
 出
 一着の
 今

舞臺

七落二むうぬ跋

京傳自誌



或問伊如と無益の妄作を成耶 余曰夫弥陀を
念ふ佛身成と欲者あり軟弱を捨く地獄に
通し思者有り悉皆一箇の癖あり 余嘗戲作を
成も一癖あり蓋虚証以て實より傳へ幼童は
証もた罪大なりと唯速に善を善と
悪を悪とて故に閻羅千斤を以て舌を抜といふ
共是を恐まは問者は以て唯唯と云て退

七く日兆



Handwritten text in cursive script (草書) on the left page of an open book. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The characters are highly stylized and difficult to decipher. The visible characters include:

Top line: 一 (one)

Middle line: 人 (person)

Bottom line: 子 (child)

Other characters are partially obscured or faded.

The right page of the book is mostly blank, showing faint horizontal lines and some minor discoloration or staining. There is no legible text on this page.



34

3